

〔編集後記〕

天候不順も心配だが、世はますます混迷を深めているのではないかと危惧する。そのような状況下、示唆に富む小論を投稿してくれたのは、久々に登場の松尾。現実社会でさまざまな問題に立ち向かうとき、状況論理と行動論理があることがわかれば、物事を理解し易いと思われる。和田のエッセイは、新型インフルエンザに対する学校現場の一部始終をつづったものだが、対応の手際よさと切れ味のいい文体に感心する。叙事詩をと思いながら、楠瀬は抒情詩の小さな世界に落ち着いた。村上の新作は飛ぶように売れているようだが、松崎は熟成を重ねた一滴一滴を読者に着実に届ける。

「とい」は29号を数え、ようやく一年一回の発行に戻ろうとしている。同人諸氏がそれぞれに問いかけを続けることを切に願う。<<>